

科目名	日本文化論特講Ⅱ	担当者	ヤマダ ジュンジ 山田 潤治	期間	通年	単位数	4
-----	----------	-----	-------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目 的	<p>本特講は、近現代日本が他者との出会いをきっかけに、いかに自己の文化的アイデンティティを確立しようとしたのかを文学的視点から考察することを目的とする。</p> <p>日本とはなにか、日本人とはなにか、という問いに対して、(1) 他者が日本／日本人に対して抱く《他者のもつ自己イメージ》への違和感と、(2) 《自己のもつ自己イメージ》が明確に確立されていないという違和感、というふたつの存在論上の不安を、近代日本は抱えたが、その不安へのさまざまな対応——文化的アイデンティティ構築の試みを、戦前の日本浪漫派運動／戦後文学における歴史叙述、の2点を観測し、考察する。</p> <p>学修を通じて、(1) 世界の現状を理解し、説明する力を身につけ、また、(2) 問題発見・解決力が修得できる。加えて、(3) 省察力をもった自己となることを学修目的とする。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>文化のアイデンティティがどのように構築されるかを知る。自己の文化的アイデンティティを、他者との対話によって構築することができるようになる。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>戦前の日本浪漫派の文人たちの作品について分析された評価の高い博士論文を読み、同レベルの文献を十全と読みこなすことができる。</p> <p>自らの考察を4000字程度の論文にまとめ、客観的に評価することができる。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】</p> <p>各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低45時間の学修時間を要するものとする。(1レポートあたりの時間数)</p> <p>教材の学修：15時間 レポート執筆：15時間 レポート推敲(添削指導含む)・最終稿の完成：15時間</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>manaba folio を使ったインタラクティブな添削指導を行う。</li> </ul> <p>【学修方略 (LS)】</p> <p>文献精読：基本教材および関連資料を精読し、課題に取り組む。</p> <p>レポート作成：レポート作成にあたっては、基本構想、草稿から最終決定稿に至るまで、履修者と担当者間で、問いと回答、添削と書き直しを繰り返し、段階的に進める。</p>		
スケジュール	<p>前期：5月末日までに、文献精読の進捗状況を報告。 7月中旬までに教材1のレポート課題(1)最終稿を提出。 レポート課題(2)については9月中旬までに最終稿を提出。</p> <p>後期：10月末日までに、文献精読の進捗状況を報告。 11月中旬までに教材2のレポート課題(1)最終稿を提出。 レポート課題(2)については2019年1月の課題提出締切日までに最終稿を提出。</p>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80%	教材の精読と理解 30% 自らの論説の妥当性と説得力 30% 学術論文としての体裁、適切な引用がなされているか 20%
	平常評価	20%	メール、manaba等を活用して、主体的に自らの疑問を解決することができたかどうか。
履修者への要望	<p>基本教材は、あえて、2次資料(原典となる1次資料を分析した論説的文章)を設定している。レポート作成にあたっては、かならず、基本教材で扱われている1次資料を探し、1次資料にあたることを約束してほしい。1次資料に真摯に向き合い、2次資料を補助線としつつ、履修者本人の所説をたてるのが学問の根幹であり、けっして変わることはない心理だからである。資料のなかには、新刊書店で入手困難なものもあるだろうが、都道府県立の図書館や、近隣の図書館を積極的に活用し、資料の入手につとめてほしい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： ケヴィン・マイケル・ドーク 教材名： 『日本浪漫派とナショナリズム』(柏書房, 1999年) ISBN:978-4-76-011731-4 4,200円+税 <b>【紀伊國屋在庫僅少】</b> 1930年代, 近代の超克が議論されるなか, 日本の文化的アイデンティティを追求した日本浪漫派の文業が, 15年戦争を支えるナショナリズムへと収斂していったか, その具体的な軌跡を論じた研究である。第1章: 保田與重郎, 第2章: 神保光太郎・萩原朔太郎, 第3章 田中克己・伊東静雄, 第4章: 亀井勝一郎, 第5章: 林房雄, と日本浪漫派の主だった同人たちの作品が精緻に分析されている。
参考図書	保田與重郎『改版 日本の橋 (保田與重郎文庫)』(新学社, 2001年) ISBN4-7868-0022-8 778円 (税込) Kevin Michael Doak, Dreams of Difference: The Japan Romantic School and the Crisis of Modernity, Univ of California Pr on Demand, 1994 ISBN0-5200-8377-6 5,000円 (税込) 江藤淳「日本文学と「私」—危機と自己発見」, 『江藤淳著作集 続1 成熟と喪失その他』(講談社) 所収
履修上のポイント	日本浪漫派の軌跡を知る上で, まずは基本教材1を通読すること。巻末には雑誌『日本浪漫派』総目次も掲載されており, 注や参考文献も, 日本浪漫派を理解するために必要な文献ガイドラインとして活用することができる。自ら関心をもった文献等に積極的にアクセスすることが重要であり, 浪漫派が残した作品を精読し, 分析して, 問題を発見することが履修上の最重要ポイントである。
レポート課題 1	日本における「ナショナリズム」「ロマン主義」「近代」の関係について論じなさい。(4,000字程度) <b>留意点:</b> プロローグ(ナショナリズム, ロマン主義および近代の問題)と第1章(イロニーの実践に向けて: 保田與重郎)を読み, 取り組みこと。
レポート課題 2	日本浪漫派の同人のうち, 保田與重郎, 神保光太郎, 萩原朔太郎, 田中克己, 伊東静雄, 亀井勝一郎, 林房雄から, 一人を選び, 彼らが構築しようとした日本の文化的アイデンティティの問題点について論じなさい。(4,000字以内) <b>留意点:</b> 誰のどの作品を分析しているのかを明記して論じること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 仲宗根政善 教材名： 『ひめゆりの塔をめぐる人々の手記』(角川ソフィア文庫, 1995年) ISBN:978-4-04-151501-3 680円+税 沖縄戦でひめゆり学徒隊を引率した教員が, 戦後, 本人の経験と, 生存した師範学校生徒たちから聞き取った戦争体験をまとめた手記である。ひめゆり学徒隊の《物語》は, 戦後4度「ひめゆり」の名を冠した映画製作によって, 日本中に知られるようになったが, その《物語》と緊張した距離感を保つ書物である。
参考図書	仲程昌徳『沖縄の戦記』(朝日新聞出版, 2013年) ISBN4-0229-2056-4 1,663円 映画「ひめゆりの塔」(今井正監督作品, 1953年) ほか
履修上のポイント	戦後日本文学は, 「負けた戦争」をどう描くか, をその出発点として開始されたと言ってよいが, 文化的アイデンティティ構築に反して, 神話の構築と神話の解体とが, 絶えず行われてきた。戦争の経験も, ひとつの物語として総括しようとする解釈と, 物語化を拒む解釈とが併存され, 文化的アイデンティティ構築へのアンチテーゼが模索されてきた。基本教材2が, ひめゆり神話の構築にどのように関わってきたかを分析する。
レポート課題 1	『ひめゆりの塔をめぐる人々の手記』が, ひめゆり学徒隊の《物語》化にどのように関わってきたのかについて論じなさい。 <b>留意点:</b> 原作が映画「ひめゆりの塔」にどのように反映されているかを具体的に分析すること。
レポート課題 2	先の大戦を題材に描かれた文学作品あるいは映像作品をひとつ取り上げ, 文化的アイデンティティをキーワードとして自由に問題を設定し, 論じなさい。 <b>留意点:</b> 誰のどの作品を論じるのかを明確にすること。どの作品を選ぶかに, 十分な準備時間をかけること。